

飯山仏壇 新STYLE開発支援の紹介

環境・情報技術部門

地域資源製品開発支援センター事業では、県内の風土に根ざした技術、農林水産物などの特色のある地域資源を活用し、感性価値を高めた競争力のある商品開発・発信を企画から一貫して支援しています。

平成28年度に支援した中から、飯山仏壇事業協同組合の「現代生活にマッチする仏壇開発」について、その背景・支援経過等を紹介します。

■ 新商品開発は事業者の熱意から

国が指定する伝統的工芸品「飯山仏壇」を製造・販売する飯山仏壇事業協同組合（以下、組合）は、需要縮小の打開に向けて、現代ニーズに沿った仏壇開発を真剣に模索していました。地域資源製品開発支援センター事業（以下、当センター）を活用し、この取組を推進したいと相談があったのは2年ほど前のことです。即座に組合と当センター間でヒアリングを行い、新仏壇開発のプロジェクトを開始しました。組合と当センターに加え、これまで組合を支援してきた長野県中小企業団体中央会も参画し検討を進めました。

■ 飯山発の新しい仏壇とは

まず、全国規模で販売展開する仏壇問屋を講師に招き現代のニーズを調査し、都市部での需要が見込まれること、売れ筋はモダンな家具調仏壇であることがわかりました。これを踏まえ、飯山で産すべき新仏壇とは何かを検討しました。

飯山仏壇の生産は、木地、彫刻、蒔絵、箔押し等、各組員が分業で行っています。開発すべきは、すでに先行例のある家具調仏壇ではなく、伝承の技や生産体制を活かし、かつ都市型住宅での生活にマッチする仏壇であるとの結論に至ります。また、現代住宅での需要を見込み、「祈りは仏間からリビング・手元へ」をコンセプトとしました。

■ デザイン・試作・情報発信

上記を具現化するため、県内3名のデザイナーをプロジェクトに招き、組合と共に考え試作に入り、平成27年度末、1次試作が完成しました。試作品について、目指すコンセプトに沿っているか、市販化は可能か等再確認し、平成28年度からデザインディテールの修正、商品化に向けた作り込みの検討を重ね、「飯山仏壇 新STYLE」3シリーズ（図1）が完成しました。併せてコンセプトブックを作成しました。また、飯山商工会議所もプロジェクトチームに参画し県内外の展示会出展やホームページでの情報発信に努めました。

■ 継続した新しい商品開発

国の伝統的工芸品に指定される「飯山仏壇」を伝承し作り続けることは重要で大変なことです。このプロジェクトでは、伝統の技や生産体制を活かした、現代のニーズに合った売れる商品を継続して提供していくことが、後継者の確保や産地活性化につながると考え、それら新しい商品群・取組を総称し「IIYAMA MADE」とし、シンボルマーク（図2）を決定しました。今回開発した「飯山仏壇 新STYLE」にも、このマークが入っています。



図1 飯山仏壇 新STYLE（3シリーズ）



IIYAMA MADE

図2 シンボルマーク

■ 終わりに

当センターでは、工業技術総合センターの基盤技術を活用すると共に、専門性を持つ他の機関とも連携し、製品開発を支援しています。ご相談は下記の連絡先まで、お気軽にお問い合わせ下さい。

長野県工業技術総合センター
環境・情報技術部門 人間生活科学部 松沢草介
TEL:0263-25-0790 FAX:0263-26-5350
E-Mail: kankyojoho@pref.nagano.lg.jp